

令和元年度学校評価結果

R1年度 前期(7月)

アンケート項目番号	重点目標	評価の観点	(A評価を記載)	担当	3者アンケート結果			結果の考察	判定	評議員評価	今後の取組	
					評価者	A	B					A+B
教① 児6 児7	授業 (主体的・対話的な授業)	「三角ロジック」を意識した話し合いを指導している 相手に伝わる声で話したり、自分の考えと比べて相手の考えを聞いたりしていますか 自分の考えをわかりやすく伝えてありますか。(三角で伝えようとしていますか。)	「三角ロジック」を意識して話す児童の割合(85%以上) 1-① できている⑥ できている⑦	研究 神村	教師	20.0	60.0	80.0	児童自身は「比べながら聞く」「わかりやすく伝える」ことを意識しているのとらえているが、教師が期待する姿に到達している児童は少ない。	B	A 61.4 A+B 92.4	「三角で伝えよう」「聞き名人になろう」にモデルを示し、教師はモデルとなる姿を見せる。また、モデルのような話す聞くができたかという視点で、2週間に1回自己評価を行う。教師も指導を意識しているか自己評価を行う。
					児童	54.3	34.3	88.6				
					児童	45.7	42.9	88.6				
					平均	40.0	45.7	85.7				
					教② 保3 児10	授業 (深い学びへの工夫)	深い学びにつながる「★思考を深める発問」を設定している。 学校は、分かる授業づくりを行っている。 授業はわかりやすいですか。	授業の中で設定している(80%以上) 1-② できている③ できている⑩				
保護者	60.0	34.3	94.3									
児童	65.7	31.4	97.1									
平均	75.2	21.9	97.1									
教③ 保5	基礎学力の確実な定着	タイムマネジメントを意識し、キーワードを用いて児童自身の言葉でまとめや振り返りを行っている。 学校は、計算や漢字等、基礎基本の定着を図るために授業の工夫を行っている。	児童自身がまとめや振り返り(適用問題)を行った授業(90%以上) 1-③ できている⑤	研究 神村	教師	20.0	60.0	80.0	児童自身の言葉でまとめを書く時間を生み出すためのタイムマネジメントに課題がある。保護者評価の高さは、昨年度から取り組んでいる笠野塾が定着していることも関係があると思われる。	B		各教科における深めの発問や、道徳科における中心発問を開始する目安の時間(深めの発問まで20分、中心発問まで15分)を意識し、タイムマネジメントを意識した授業をする。
					保護者	60.0	34.3	94.3				
					平均	40.0	47.2	87.2				
					教④ 保7 保10 児8	学習規律の徹底	ベル学で45分の授業時間を確保している。 学校は、子どもたちに正しい姿勢、話す・聞く態度など学習規律の指導を行っている。 学校は、食育や歯磨きなど、健康についての指導を行っている。 正しい姿勢で学習していますか。	確保している 1-④ できている⑦ できている⑩ できている⑧				
保護者	54.3	34.3	88.6									
保護者	65.7	25.7	91.4									
児童	25.7	57.1	82.8									
平均	57.3	33.5	90.7									
教⑤ 保4 児9	考えを書かせる指	授業中に児童が考えを書く指導をしている。 学校は、考えを書く指導を行っている。 自分の考えをノートに書いていますか。	している 1-⑤ できている④ できている⑨	研究 神村	教師	100.0	0.0	100.0	学習課題に対する自分の考えや、まとめを書く時間を設定し、個人思考の場として大切にできたことが、児童、保護者のA+B評価90%以上につながった。しかし、主述関係の整わない文を書く児童が見られるなど、書く力が高まっているとは言いがたい。	A		個人思考をノートに書く時間を設ける取組を継続する。個人思考を書かせる指導の実施後に、教師は振り返りをする。1時間を選び週案に振り返りを書く。振り返りは、①児童の達成度②効果のあった指導③改善点等とし、取り組んでいく。
					保護者	65.7	28.6	94.3				
					児童	74.3	25.7	97.2				
					平均	80.0	18.1	97.2				
教1-⑥ 保6 保2-1 児1 児2	家庭学習の習慣化	自学も含め、学年や個人に応じた(内容・時間)家庭学習の指導をしている。 学校は、児童が家庭で勉強する習慣が身につくよう指導している。 お子さんは家庭学習に取り組んでいる。 宿題を忘れずにしていますか。 家で学年×10分程度(1年生は20分)の学習をしていますか。	している 1-⑥ できている⑥ できている2-① できている① できている②	研究 神村	教師	100.0	0.0	100.0	学年に応じた時間、家庭学習に取り組むことが定着しているといえる。しかし、漢字練習ノートや自主学習ノートの成果物を見ると、質の差が見受けられる。丁寧さが足りないものや、間違いを最後まで直していないものなどがあり、その差が理解度の差につながっていると思われる。	A		教師は、学年や個人に応じた家庭学習の指導を行う。ノートに朱書きを行い評価をしたり、手本となるような家庭学習を行った児童の成果物を掲示したり、家庭学習の手引きを用いた確認を定期的に行う。また、指導が意識できていたかを毎月1回セルフチェックシートで振り返る。
					保護者	48.6	42.9	91.5				
					保護者	51.4	31.4	82.8				
					児童	60.0	25.7	85.7				
					児童	77.1	20.0	97.1				
平均	67.4	24.0	91.4									
教1-⑦ 児11	外国語活動の充実	アクティビティによる学習課題の設定及びふり返りを授業の中で行っている。 外国語活動では、習った英語を使って進んでコミュニケーションをとろうとしていますか。	90%以上の授業で行った 1-⑦ できている⑩	外国語 登美	教師	100.0	0.0	100.0	複式授業で行っているが、ALTの方々の連携を行い授業形態や流れが確立してきた。一つの学年に大型テレビが与えられているので、課題に沿ったDVDを使用したアクティビティを取り入れられているので、ふり返りもしっかりと出来ている。	A		引き続き課題を設定し、振り返りまで行う。そのために、ALTとの連携をさらに密にし、タイムマネジメントを意識して取り組んでいく。
					児童	60.0	28.6	88.6				
					平均	80.0	14.3	94.3				

教⑦ 児14	ICTの活用	タブレットやパソコン、大型テレビなどICT機器を活用している。 タブレットやパソコン、大型テレビで授業をするとわかりやすいですか。	積極的に活用している(週2回以上) 1-⑧ できている⑭	情報	教師 児童 平均	25.0 77.1 51.1	75.0 14.3 44.7	100.0 91.4 95.7	児童が積極的にICT機器を活用していると感じているのに対して、教師は授業内で積極的に活用する(週に2回以上)には至っていない。	A		調べ活動や新聞作りの際には、積極的にパソコンを利用する。大型テレビを活用し教材を映すことで、授業に取り入れていく。
教2-① 保14	道徳科の授業の充実	思考ツールを工夫した対話的な話し合いの場を設定する。 学校は道徳授業の様子を保護者に伝えている。	月3回以上は取り入れている2-① できている⑭	道徳 神村	教師 保護者 平均	80.0 62.9 71.5	20.0 34.3 27.2	100.0 97.2 98.6	これまで学級ごとに発行していた道徳だよりを、学級向けと全校向けの2種類ずつ発行したこと、道徳授業の様子がわかると感じている保護者の数は昨年度より増えた。道徳授業が楽しいと感じている児童の割合は7割程度で、自分の考えを話すことが好きだという児童も7割にとどまる。	A	A 62.4 A+B 96.2	自分の考えを話すことに抵抗感のある児童の意識改革を図る。話すことに抵抗感のある児童は、他者の考えを受け入れることにも抵抗感があるという調査結果があった。「聞き名人になろう」に記した「スタンバイ」を意識できるよう指導する。児童はスタンバイができたかという視点で2週間に1回、自己評価を行う。
教2-② 保9 保2-2 保2-5 児4 児5	基本的な生活習慣の確立	宿題を始める時刻を指導している。 学校は、児童が早寝により睡眠時間の確保ができるための取組を行っている。 お子さんは早寝により睡眠時間を確保している。 お子さんは約束を決めてメディアと付き合っている。 早寝(10時前)・早起き(7時前)をしていますか。 おうちの人と相談し、約束を決めて、ゲームやテレビなどのメディアにふれていますか。	いろいろな場面で指導している2-② できている⑨ できている2-② できている2-⑤ できている④ できている⑤	保健 英	教師 保護者 保護者 保護者 児童 児童 平均	100.0 51.4 22.9 17.1 68.6 51.4 51.9	0.0 40.0 31.4 48.6 20.0 31.4 28.6	100.0 91.4 54.3 65.7 88.6 82.8 80.5	児童の睡眠時間の確保に取り組めていない保護者が多いが、学校への取組の評価は高い。児童は約9割ができていると自己評価した。また、メディアのルールについて児童の自己評価は高いが、保護者からの評価は、低い。保護者から見て約束を守れていない児童が多いと考えられる。	B		睡眠やメディアについて保護者の意識を高めるため、保護者も対象にした学校保健委員会を実施したり、メディアとの付き合い方について専門家から話を聞く機会を設けたりする。また、気になる児童には、宿題やメディアのルール確認や、帰宅後の過ごし方について具体的に取り組むことを決め、保護者と共有する。
教2-③ 保8 保2-4 児12	あいさつの習慣化	まず教師が元気な挨拶を率先し、先あいさつをするよう指導している。 学校は、心を伝えるあいさつができる子になるよう取り組んでいる。 お子さんは家庭や地域でのあいさつを行っている。 気持ちのよいあいさつしていますか。(先あいさつ、目をみてあいさつ、元気のよいあいさつなど)	いろいろな場面で指導している2-③ できている⑧ できている2-④ できている⑫	生指 杉本	教師 保護者 保護者 児童 平均	100.0 65.7 51.4 85.7 75.7	0.0 25.7 37.1 8.6 17.9	100.0 91.4 88.5 94.3 93.6	学校でのあいさつはとても素晴らしいものがあるが、家庭では自分から進んできちんとしたあいさつができていないと思われる。児童は学校であいさつがしっかりとできていることを実感していると思うので評価が高いと思われる。	A		学校でのあいさつを家庭や地域に広めていく活動を行い、児童の挨拶に対する意識を高めていく。また、家庭では大人の方から挨拶をしていくことも啓発していく。
教2-④ 保11 児13	いじめ等への対応	授業の中で、どの子にもよさを認める、ぬくもりのある指導をしている。 学校は、いじめや児童の問題などに、適切に指導・対応している。 なかよし班の仲間や友だちと仲よく助け合っていますか。	どの子の良さも認める指導をしている2-④ できている⑪ できている⑬	生指 杉本	教師 保護者 児童 平均	75.0 52.9 82.9 70.3	25.0 44.1 8.6 25.9	100.0 97.0 91.5 96.2	いじめに対する取り組みは未然予防を中心に行われており、小さなトラブルも対応することができている。	A		なんでも相談を継続し、小さな悩みも相談にのる教師側の姿勢を今後も示し、児童が安心して学校生活を送れるようにしていく。保護者には学校便りなどを利用し、学校の取組を紹介していく。
教2-⑤ 保12	心の教育	ねらいを明確にして、充実した交流活動を行っている。 学校は、地域の伝統や文化を大切に、児童の豊かな心を育成するための取組を行っている。	行っている2-⑤ できている⑫	生指 杉本	教師 保護者 平均	80.0 71.4 75.7	20.0 25.7 22.9	100.0 97.1 98.6	なかよしグループや集団登校などで学年を越えた縦のつながりができている。高学年は低学年の面倒をみたり、教えたりしようという姿勢が身についている。	A		これまで受け継がれてきている上級生と下級生のつながりを、日頃の活動や行事などを通して伝えていく。その活動を上級生、下級生のそれぞれのめあてで評価していくことで充実感や達成感をもてるようにしていく。
教⑥	異学年交流	なかよし班活動を通して、児童の思いやりある心を育てている。	なかよし班活動に進んで参加しており、児童の心も育っている2-⑥	特活 古田	教師 平均	60.0 60.0	40.0 40.0	100.0 100.0	教師は、なかよしグループでの活動の際に高学年を中心に思いやりを持ちまとまって行動できていると感じている。	A		中学年以下の児童が、下級生に対して異学年交流の際に積極的に関わり合い、手助けやアドバイスをしようという意識が希薄である。そこで、運動会練習をいかして積極的に下級生に関わり合うよう教師側も意識して声掛けをする。また、高学年児童には声のかけ方を下級生に教えることをさせる。

2
豊かな心とたくましく生きる力の育成

A

教⑦ 保2-3 児3	読書活動の推進	図書館利用計画に基づく活用を行っている。 お父さんは親子読書、週末読書など家庭での読書に取り組んでいる。 家庭で読書（親子読書、週末読書）をしていますか。	90%以上は活用している2-⑦ できている2-③ できている③	読書 登美	教師 保護者 児童 平均	40.0 34.3 74.3 49.5	60.0 42.9 17.1 40.0	100.0 77.2 91.4 89.5	昨年度末と比べると、保護者のA評価が12パーセント増え、AB評価が高くなった。週末読書だけではなく、週三回の平日読書の声かけが、家庭にでも表れてきていると思われる。	B	図書館利用計画の活用をしやすいように、各教室の読む読むボックスに各月に利用する本を準備する。また、毎週火曜日の掃除時間を、読む読むボックスの読書時間とし、時間の確保をする。		
教⑧ 児15	体力の向上	1校1プランを意識した運動（上体起こし、反復横跳び等）を授業等で取り組んでいる。 進んで体を動かしていますか。	週2回以上取り組んでいる2-⑧ できている⑮	体育 本山	教師 児童 平均	75.0 62.9 69.0	25.0 22.9 24.0	100.0 85.8 92.9	週に最低でも1回は、1校1プランを意識した運動を行っている。また、児童のほとんどが進んで体を動かすことができている。	A	授業の導入には、積極的に1校1プランを意識した運動を取り入れる。また、上体起こしや時間走だけでなく、柔軟体操等にも取り組んでいく。体育委員会主催で長休みの時間を利用して、スポチャレに取り組んでいく。		
教9	自然とのふれあい	担任による「しぜんふれ合いタイム」等の積極的な活用。	学級で月2回以上の活用をしている2-⑨	教務 登美	教師 平均	50.0 50.0	50.0 50.0	100.0 100.0	今年度から始まった、道徳の話そうタイムの時間を確保するために、月に2回の実施が難しくなってしまった。また、天候にも恵まれなかったことも原因である。	A	今後の月行事予定を見てみると、やはり月2回の実施は難しいと考えられる。その分、理科や生活科・総合の時間の積極的な活用を声かけする必要がある。		
教1 保2	3 家庭・地域と連携した信頼される学校づくり	地域に開かれた教育課程	保護者や地域人材を日常的な授業や行事、体験活動などで活用している。 学校は、保護者と連携・協力した学校づくりを行っている。	計画に従い活用している（90%以上）3-① できている②	教頭	教師 保護者 平均	50.0 45.7 47.9	50.0 45.7 47.9	100.0 91.4 95.7	音楽会の演奏に、地域の伝統文化であるでんでこ太鼓を取り入れ、地域の人の協力を得て、練習、発表を行った。また、学校園や花壇の整備、昼休みのサポート等でも地域人材の手を借りて概ね計画通り活用することができた。	A A A+B	A 67.6 97.6	今後も、地域人材や保護者の協力を得ながら、連携して、積極的な人材活用を進めていく必要がある。
教2 保1		保護者・地域との連携	ホームページや通信、連絡帳等を通して学校の様子を知らせている。 学校は、教育活動の様子をわかりやすく保護者に伝えている。	知らせている3-② できている①	校長	教師 保護者 平均	100.0 60.0 80.0	0.0 34.3 97.2	100.0 94.3 97.2	学校からは月1回の学校便り、学年便りと道徳日よりと毎日のHPで学校教育の様子を伝えている。また、発達段階に応じて、担任裁量で適宜学級便りを発行している。	A	教育活動の様子は、引き続き同様の形で発信していく。学校の様子を知らせるために、今後は授業参観後の懇談会の持ち方について検討していく。	
教3 保2-6		危機管理	危機管理意識を持って児童への指導を行い、週案にも記載している。 お父さんは安全に登校し、不審者や事故から身を守ろう気をつけている。	常に週案にも記載している3-③ できている2-⑥	教務 登美	教師 保護者 平均	100.0 50.0 75.0	0.0 50.0 25.0	100.0 100.0 100.0	週案の記入は100%であり、書き込むことで危機管理は高まってきている。	A	A 今後引き続き、週案に記入していく。また、緊急の場合は、生徒指導がランチルームで全校に話すことで、指導に漏れがないので、これも引き続き行っていく。	
教4-1	4 的なPDCAサイクルを意識した、組織	取り組みの改善	PDCAサイクルを意識して取組を提案し、改善している。	提案、改善の取り組みをしている4-①	教務 登美	教師 平均	83.3 83.3	16.7 16.7	100.0 100.0	昨年度末と同じ数値である。	A A A+B	A 77.4 85.7	今後も、行事などを行うときには、提案前に前年度の振り返りを全体に提示し、改善点を意識した提案をしよう。また、来年度につながる振り返りも引き続き行っていく。
教4-2		働き方	勤務時間を意識した効率的な働き方をしている。	1カ月の時間外勤務時間の平均が60時間以下4-②	教頭	教師 平均	71.4 71.4	0.0 0.0	71.4 71.4	概ね、時間外勤務時間が60時間以下の職員が多いが、個人差が大きい。小規模校で、仕事の量に比べて職員の数が少ないため、一人当たりの業務量や作業時間が多くなる傾向がある。			職員の意識改革を進めるとともに、業務の全体量を減らし、業務の効率化、省力化を進めていく。また、仕事量を平準化し、仕事が一人に偏らないよう努力するとともに、定時退庁日、ノー残業デーの実動、校務支援システムや地域人材の活用、研修会の持ち方等をさらに工夫していく。

<評価者>保護者、児童、教師

<判定基準>
児童・保護